

日本脊椎脊髄病学会 平成 24 年度第 1 回国際委員会議事録

平成 24 年 4 月 20 日（金）7：30～8：00

石橋文化センター2 階「研修室 A」

出席者：富士武史理事、岩崎幹季委員長、鑑邦芳委員、石井祐信委員、小西宏昭委員、清水克時委員、長谷川和宏委員、湯川泰紹委員、松山幸弘アドバイザー

1. 第 1 回 English Poster Award について

受賞者 5 名	年齢	国	勤務先
Alexander Rodríguez Guerrero	37	Japan	Department of Orthopaedics and Rehabilitation Medicine, Faculty of Medical Sciences, The University of Fukui.(福井大)
Sumihisa Orita	36	Japan	Department of Orthopaedic Surgery, Chiba University School of Medicine(千葉大)
Byung-Wan Choi	37	Korea	Department of Orthopedic Surgery, Inje University, Haeundae Paik Hospital
Mary Ruth Alfonso Padua	33	Philippines	Department of Orthopedics, Gangnam Severance Hospital, Yonsei University(韓国)
Raghavendra Shankar	35	India	Department of Orthopedic Surgery, Rajarajeshwari Medical College and Hospital, Bangalore 560074, India

上記 5 名が受賞し、4 月 19 日の全員懇親会にて永田会長より賞状と賞金 10 万円を授与した。
なお折田純久先生のみ受賞式に参加せず、翌日事務局より賞状と賞金を渡した。

アワードを終え、全体的な問題点を挙げた。

- ・予想より傍聴者が多く、スペースがなかった。
- ・委員の発表や座長が審査と重なってしまった。次回は運営事務局に重ならないよう依頼する。
- ・日本へ留学している外国人よりも、このアワードのために海外から来る人を増やすことが課題ではないか。
- ・昨年は募集が遅くなったので、今年は早めにアライアンスを結んでいる学会へ案内を出す。
- ・応募が殺到しそうなので、日本人は 1 人 1 題までしか応募できないという規制を設けてはどうか。
- ・外国人を優先すると、日本人の演題が優秀であっても不利になる。
- ・審査の方法、外国人と日本人の比率については今後も委員会で議論を重ねていくことが確認された。

2. 平成 23 年度国際委員会決算報告

今後はポスターアワード関連の経費が増えるため、より積極的に寄附金を募る。

3. 平成 24 年度寄附金募集について

5月の日整会学術集会で企業に趣意書を配布する。事務局で趣意書を作成し、各委員へ郵送する。

4. 学術集会関連事業のためのアドバイザーについて

イングリッシュポスターアワードのアドバイザーとして、慶応義塾大学整形外科学教室の岩波明生先生に就任していただくこととなった。この件は毎年1月の理事会で国際委員会理事から次回学術集会の会長に依頼するということが富士理事から申し送りされた。

5. 任期満了による委員の交代について

富士武史理事、岩崎幹季委員長、鑑邦芳委員、石井祐信委員、清水克時委員、白石建委員の6名が任期満了となる。

6. Global Spine Congress 2013 について

2013年4月に香港で開催されるGSCについて、発表者3人を選出するよう主催者から依頼された。国際委員会で対応することが理事会で決定したため、松山アドバイザーと湯川委員でAOSPINEとの調整を進めることとなった。

7. 次回開催について

42回学会の演題登録開始前に開催が必要と考えられるが、新委員会が5月18日に組織されるため、それ以降の開催を検討する。